

「大・南大萱展」の諸成果

林 珠乃・蔭山 歩

1) 対外的な成果

・ アンケート結果から読み解く学外来場者に対する南大萱展の効果

南大萱資料室の収集した南大萱の歴史・文化を、南大萱に居住する人のみならず、大津市・滋賀県・近畿圏の一般市民で共有する機会を作ることができた。また、住民有志で地域の資料を収集する活動を、広く紹介することができた。瀬田丘陵周辺のような、普通の地域の歴史・文化の知識の収集は、現在ほとんどなされておらず、失われていく一方であるのが現状である。南大萱資料室のような、地域住民の地道な資料収集活動は、地域情報の収集の主力となるはずであり、このような活動を南大萱地域以外に居住する人々に紹介し、活動意欲を高めるきっかけを作ったことは、非常に大きな成果と言えるだろう。

南大萱地域の瀬田北小学校から来場された教諭は、子供達が地域の歴史を学習するよい材料になるとの意見が寄せられた。また、教育関係者ではない一般の来場者からも、今回の展示を材料として、地域の歴史を学ぶ機会を子供達に与えてほしいとの意見も聞いた。このように、地域の歴史・文化の知識を地域住民が共有することで、地域が子供に与える教育について考えるきっかけを作ることができた。

また、今回の展覧会は、地域住民同士の交流の場になっただけでなく、地域住民と地域の企業とを結びつけた。例えば、琵琶湖の水質浄化等環境保全に取り組む東洋建設の社員からは、歴史的背景から水質の変化要因を見つける必要もあり、歴史の研究は学問のみではなく、現代社会において具体的に活用されるはず、という

表1. アンケートに記載された
学外来場者の居住地域

地域	人数
南大萱	113
南大萱外大津市	70
大津市外滋賀県	30
滋賀県外	20
不明	68

表2. アンケートに記載された来場者の関係機関

	人数
龍谷大学生・大学院生	
国際文化学部	96
理工学部	6
文学部	1
社会学部	1
学部不明	50
龍谷大教員	10
学内関係者 計	164
他大学学生・大学院生	3
他大学教員	6
教育関係者	7
官公庁・企業	17
自治会関係者	6
ボランティア関係者	9
中学生	1
その他	252
学外 計	301
総計	465

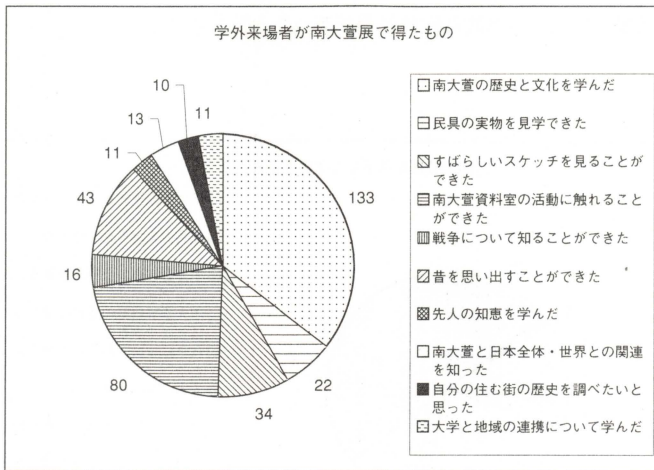


図1. 学外来場者が南大萱展で得たもの

コメントが寄せられた。このように、地域住民の地道な努力が、居住する地域のみならず、琵琶湖の水を利用する社会に貢献する可能性を提示できた。

2) 学内的な成果

・ レポートから読み解く对学生に対する教育効果

南大萱を見学した、112人の国際文化学部二回生が提出したレポートから彼らが学んだものについて読み取った。

多くの学生は、自らの生活の場である南大萱の歴史に初めて接し、新鮮な驚きを感じていた。特筆すべき点は、14%もの学生が、戦中の小学生の日記や平均寿命表、戦没者の写真などの戦争に関する展示から、この南大萱で実際に起こった自分と同期年に、それも外国で命を落とす若者が多いことに衝撃を受けたことだ。

また、展覧会場にて南大萱資料室の方々に説明を受けた学生からは、地域の伝統や文化を守っていく必要性や、地域のコミュニティやアイデンティティの問題に直接触れることで、強い関心と南大萱への愛着を感じたとのコメントもあり、さらに、自分の住む地域や故郷の歴史や文化に対して改めて目を向けたいとの意見も多数あった。このように、展覧会を通じて、歴史や文化の情報、そこに住む人々との触れあいから地域に対する再認識へとつながった。普通の授業・実習では学べない、例えば、民俗学・現代史・景観学等多岐に渡る複合的な教育効果があったと言えるだろう。

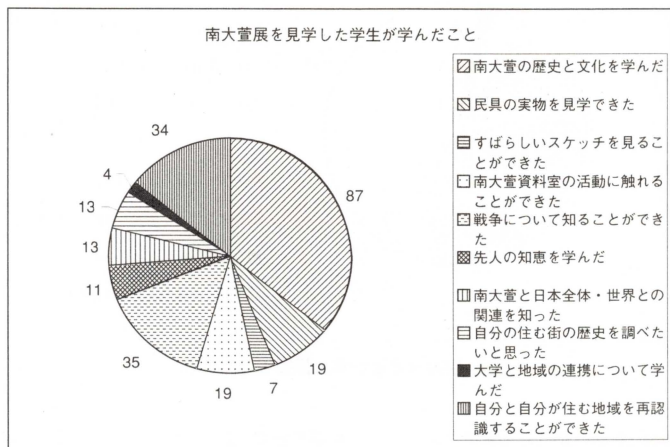


図2. 南大萱展を見学した学生が学んだこと

会期中展覧会で講義が16回実施された。これは、展覧会に訪れた教師が、教育の場として価値があり効果があることから行ったものだ。展覧会の質の高さが多くの先生から認められていることがわかる。

会期中展覧会場で行われた講義と受講した学生数

・4月19日（木）

国際文化学部 吉村先生 15人

国際文化学部 松本先生 10人

国際文化学部 吉村先生 48人

・4月20日（金）

国際文化学部 松本先生 11人

国際文化学部 吉村先生 35人

・4月21日（土）

文学部 丸山先生 5人？

・4月23日（月）

社会学部 橋村先生 35人

国際文化学部 二葉先生 19人

国際文化学部 二葉先生 18人

・4月25日（水）

国際文化学部 吉村先生 12人

国際文化学部 二葉先生 20人

国際文化学部 嵩先生 20人

理工学部 遊磨先生 10人

・4月26日（木）

国際文化学部 三谷先生 7人

国際文化学部 吉村先生 30人

社会学部 田中先生 12人

3) 里山学・地域共生学ORCにとっての成果

瀬田丘陵の西側に位置する南大萱地域の歴史を紹介する本展覧会が刺激となって、瀬田丘陵の東側の牧地域の歴史・文化についての調査を始めることが出来た。山を挟んだ二つの地域について調べることで、地域の連携の歴史を明らかにすることが可能だろう。また、仰木やその他の里地との比較を行うことは、南大萱地域の一般性・固有性を抽出し、多様な地域文化の維持について考察することにつながるだろう。また、地域の歴史文化の収集は、情報が膨大でかつ散在するため、一般市民の活動に大きく頼らざるをえないと思われる。学外の団体である南大萱資料室と共同した今回の展覧会では、地域の有志が収集した資料を大学の研究者が見出し、学問的視点で見直した。そして、大学が場所を提供し、地域住民・企業・自治体・大学での収集した情報の共有を試みた。大学の研究者は、地域文化の多様性を理解するために必要な次の研究テーマを定め、取り組みはじめた。このような研究の流れは、地域に根付いたボトムアップ的学問の一モデルケースになりうる。

以 上